

特定非営利活動法人エコ・リーグ  
2012年度事業報告書





目次

代表理事挨拶 .....	2
特集 .....	3
団体紹介 .....	5
事業紹介 .....	6
ネットワーク事業 .....	7
人材育成事業 .....	9
社会発信事業 .....	10
組織図 .....	11
収支決算 .....	12
沿革 .....	13
ご支援・ご協力 .....	13

# 代 表 理 事 挨 拶

## 裏 野 秀 和

Urano Hidekazu

特定非営利活動法人エコ・リーグは無事に 2012 年度の事業を終えることができました。皆様のあたたかいご支援に深く御礼申し上げます。エコ・リーグ(全国青年環境連盟)は 2012 年 2 月に法人格を取得し、今年、NPO 法人としての 2 年目を迎えることができました。

2012 年は国連地球サミットが開催されてから、ちょうど 20 年目の節目の年であり、6 月にはブラジルのリオデジャネイロで「国連持続可能な開発会議」(通称：リオ+20)が開催されました。エコ・リーグとしても日本政府代表団の顧問に派遣し、国際社会に対して日本のユースの意見発信に努めました。日本国内でも関連するイベントやキャンペーンが多く開催され、メディアでも連日取り上げられました。異常気象や大気汚染の問題、そして原発問題に関連したエネルギー問題など、環境に関するニュースが報道される機会も多く、「環境」というキーワードへの意識をさらに高めた一年となったと感じています。

エコ・リーグのターゲットである青年の興味、関心が、この 20 年間で大きく変化をしてきていると感じます。今の青年が何を目標しているのか、「環境問題」についてどのように考えているのか。どうすれば、行動し、取り組んでいくことができるのか。青年のニーズを把握することが、今のエコ・リーグの大きな課題であります。

本団体の根幹事業は「ギャザリング」です。毎回、約 100 名～200 名の学生が参加する、エコ・リーグの原点であるイベントとして実施してきました。ギャザリングでは、様々な分野に興味を持つ青年が集まり、多岐にわたる内容を議論します。このギャザリングから、様々なプロジェクトも生まれてきました。また、参加者一人ひとりの「つながり」は一生のものとなります。エコ・リーグでは「やりたいこと」が実現できる団体として、これからもギャザリングという場を大切にしていきます。青年から本当に「やりたいこと」が生まれ、仲間とともに活動していく場を提供していきます。

エコ・リーグという団体としては、まだまだ様々な問題を抱えていることも事実です。運営面でも、不安定な部分が多くあります。NPO 法人として、あるべき体制を整え、運営をしていくことも急務の課題であると認識しています。しかし、問題があるからこそ、それらをクリアすることができ、そしてそれが個人としても、団体としても成長につながるのだと考えています。そして、それらを乗り越えることができたとき、結果としてエコ・リーグのビジョンを達成でき、ひいては社会を変えることにつながるのだと考えています。私自身、大学 2 年生のときに、この団体と出会い、人生が大きく変わりました。そんな人間が、これからも一人でも多く生まれて欲しいと思っています。学生としての視点、社会人としての視点、これらをうまく融合させて団体をよりよく、運営していきたいと考えています。

エコ・リーグの目指すべきビジョン「持続可能な社会の実現」のために、今後とも、みなさまの厚いご理解とご支援のほど、よろしくお願い致します。

# 特集



## Ecology Gathering

### 全国ギャザリングを初めて福島県で開催

エコ・リーグでは、全国の青年環境活動家が参加する全国ギャザリングを開催しています。団体設立当初は、活動家が集まること自体が珍しかったですが、現在では青年による環境活動が目新しいことではなくなり、活動家間のネットワークもでき始めました。それでも、環境問題への関心が高くなかった人の意識を高め、元々高い人がさらに飛躍するための機会を提供することは意義のあることだと考え、環境活動家をネットワークし、支援しています。

毎年、合宿型のイベントとして開催しており、困ったときにお互いを助け合える仲間を得られ、自分の想いを心から問い直し、これまでにないほど活動のために頭を使います。その結果、自分を変えるチャンスを得ることができると考えています。

今回の全国ギャザリング 2012 では、互いの気持ちや活動のレベルを高め合う仲間作りを第一の目的として実施しました。さらに、自分たちの活動を自ら高めるために「環境問題に対する想い」「知識を得ることの大切さ」「学生の強みとは何か」の3点が必要であると考え、参加者一人ひとりにこの3点を踏まえた行動計画を作成してもらいました。

また、今回は初めて東北・福島県で開催しました。全国各地から77名の青年が集まりましたが、これまで全国ギャザリングでは数名程度の参加だった東北地域の青年が、全参加者の2割以上を占め、全国規模での交流促進に寄与できました。

#### スタッフの声

「各地で培われたみんなの力を結集させてみたら、どんなことが起こるのだろう？」そんな想いで始まった全国ギャザリングを今年も開催することができました。初めて会う人、元々親しい人、大学生、社会人など様々な人が関わってできた全国ギャザリング 2012 では、仲間との出会い、情報交換、新しく活動を始めるきっかけづくりを提供できたと思っています。

全国ギャザリングの魅力は「顔の見えるつながりが全国にできる」ことだと考えています。全国から集まる仲間達が様々な想いを持って参加し、様々な観点で話し合うことで、短い期間でも強いつながりができているのではないのでしょうか。



## 国連持続可能な開発会議 (Rio+20) に参加

2012年6月20日～22日、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで「国連持続可能な開発会議」(通称: リオ+20) が開催されました。20年前、1992年に同都市での史上最大の国際会議「国連環境開発会議(リオの地球サミット)」に引き続き開催され、世界中から政府、NGO、企業、メディア関係者など、延べ4万人以上が参加しました。会議テーマは(1)「持続可能な発展と貧困削減の文脈におけるグリーン経済」、(2)「持続可能な開発のための制度的枠組」でした。

全体的に、20年前のように世界の持続可能な開発に対する大きなインパクトを与えるような決定はあまりなされませんでした。これは、冷戦終結から20年が経ち、BRICsのように新興国が台頭し力をつける一方で、先進国はリーマン・ショック、イラク戦争とその後の治安悪化、欧州経済危機、東日本大震災と原発事故、などによって経済的・政治的に勢いを失ったことで、以前と比較して先進国と途上国の間の経済力・政治力の差が縮まり、世界が多極化した結果、世界的課題に対する合意形成が難しくなったことが主な原因のひとつと考えられます。

しかしながら、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」の策定に向けて動き出すことなどが合意され、今後の道筋を開きました。また、特に若者と女性グループを中心としてNGOの活発な活動により交渉結果を動かすことができたこと、企業の大規模なイベントが開催され、先進的な取り組みが共有されたことなど、これからの持続可能な社会づくりのきっかけとなる成果も上がりました。

### スタッフの声

私はリオ+20本会議に先立つこと約1年前から始まった日本政府による「リオ+20国内準備委員会」に委員として参加していました。その経緯で、政府代表団の顧問として、主に若者や将来世代に関連する分野の行動をアドバイスする立場で参加しました。

この会議に集まった世界中の若者の想いはとても強いもので、私自身非常に元気づけられました。印象的だったのは、ヨーロッパなど、一部の国々では各国内で若者の代表を選出する仕組みがあり、地域、国、国際の各レベルで社会的な課題に対して政府等へ意見を投げかけることが日常的に行われていることです。このような土壌があるために、いざ今回のような大きな会議に当たっても、若者の意見をすぐに集約でき、中心となって活動していく人も集まりやすいのです。このような仕組みづくりは、活動する日本の若者も大いに学ぶことができるのではないかと感じました。

# 体紹介

エコリーグは目指すべき最終目標である「ビジョン」、ビジョンに向かう姿勢を示す「ミッション」、そしてビジョン達成のための活動方針である「ポリシー」の3つを定め、活動方針を決めています。



- 1** ビジョン (Vision) 目指すべき目標  
 エコリーグは青年の環境問題解決への問題の取り組みにより、持続可能な社会の実現を目指します。
- 2** ミッション (Mission) ビジョンに向かう意思・姿勢  
 エコ・リーグは青年の環境問題解決への思想への取り組みを、青年の社会的責任の一つと考え、その取り組みを支援し、活性化していくことを使命としています。
- 3** ポリシー (Policy) ビジョン達成のための活動方針  
 エコリーグは青年の環境問題解決への問題の取り組みにより、持続可能な社会の実現を目指します。

## 2013年事業カレンダー

- ①実施日時 ③場所  
②事業内容 ④実施従事者、受益対象者の範囲及び人数

### NPO法人化記念パーティー

- ①2012年4月7日
- ②団体のNPO法人格獲得による祝賀会
- ③東京都
- ④約120名

### NHKエコパーク2012の出展

- ①2012年6月2,3日
- ②団体の活動内容紹介
- ③東京都
- ④多数

### 関西環境就職進路相談会

- ①2012年11月17日
- ②環境に関する仕事の紹介
- ③大阪府
- ④約30名

### エコ情報交流会

- ①2012年5月20日
- ②環境活動を行っている青年の交流や情報交換
- ③東京都
- ④約140名

### econnect (関西合同新歓)

- ①2012年6月24日
- ②環境活動を行っている青年の交流や情報交換
- ③京都府
- ④約50名

### 全国ギャザリング2012

- ①2012年11月23～25日
- ②環境活動を行っている青年の交流や情報交換
- ③福島県
- ④約130名

- ②環境問題の勉強会 ③大阪府 ④約30名

- ②大学の環境対策の、ランキング形式での評価 ③全国 ④約100名

- ②中学生を対象とした資源問題についての教材作成 ③全国 ④約60名

通年事業

# 事業紹介

**<ネットワーク事業>** 人と人をつなげる場を提供することで、活動の創出・発展をサポートする事業

○交流イベント

他大学、他世代との交流を目的としたイベントです。春の新入生歓迎時期では「エコ情報交流会（関東）」、「econect（関西合同新歓）（関西）」、「東北合同新歓（東北）」を、その他にも不定期に開催しました。

○地域ギャザリング

各地域内での他大学、他世代の交流を目的とした合宿イベントです。開催年によって交流以外の目的（環境問題の理解や今後の学生生活の過ごし方など）も合わせたものも多く開催しました。

**<人材育成事業>** 青年の経験蓄積、スキル向上を支援し、社会を牽引するリーダーを育成する事業

○組織運営に関するスキルアップセミナー

団体で活動をする上で必要となるミーティング、引き継ぎなどの組織運営に関するスキルを、ワークショップや講師による講演を交えて行うイベントです。

○環境就職進路相談会

将来、環境にかかわる仕事をしたいと考えている学生を対象とした、仕事紹介イベントです。企業に限らず行政やNPO/NGOなどの仕事も紹介し、様々な働き方を紹介しました。

**<社会発信事業>** 青年の取り組む環境活動を社会に発信し、社会全体の環境活動を活性化する事業

○RRAP

「資源」「環境」という言葉をキーワードに、携帯電話やポータブル音楽再生機器などの小型家電の回収とリサイクルおよび洋服のリサイクル、そして地熱・小水力といった新エネルギーの普及啓発活動に取り組むプロジェクトです。

○CCC

学生の過ごす大学（キャンパス）を「大きな実験室」と捉え、社会に率先して新技術・新システムを導入し、温暖化防止を促進することを目指し、「温暖化防止に取り組む環境サークルの連携」「温暖化防止に関する大学の事例調査」などを行うプロジェクトです。

関東環境就職進路相談会

- ①2012年12月15日
- ②環境に関する仕事の紹介
- ③東京都
- ④約240名

みちのくギャザリング2013

- ①2013年2月22～24日
- ②交流や情報交換のための合宿イベント
- ③福島県
- ④約100名

関東ギャザリング2013

- ①2013年3月8～10日
- ②交流や情報交換のための合宿イベント
- ③東京都
- ④約100名

全国大学生  
環境活動コンテスト

- ①2012年12月26,27日
- ②団体活動の評価をするコンテスト
- ③東京都
- ④約500名

関西ギャザリング2013

- ①2013年3月1～3日
- ②交流や情報交換のための合宿イベント
- ③大阪府
- ④約100名

# ネットワーク事業

## 地域ギャザリング



「ギャザリング」とは、環境活動をしている青年が集まり、特定のテーマについて考える合宿型イベントです。本事業はエコ・リーグの事業の中でも最大級の規模となっており、参加者にとっては議論や情報交換をする中で、自分の活動の発展に向けた学びの場や仲間探しの場となっています。

このギャザリングですが、東北・関西・関東の各地域で春に行われる「地域ギャザリング」と、夏から秋にかけて全国の活動家が一同に会す「全国ギャザリング」の二つに分けられます。地域により活動家のおかれる状況が違うので、扱うテーマは各ギャザリングにより様々です。

例えば 2012 年度において、東北ギャザリングでは「伝える」をテーマに自分の想いをうまく伝えるにはどうするべきかを、関東ギャザリングでは「活動の多様性」をテーマに多様な活動の存在の認知とそれらがどう手を取り合っていけるかを、関西ギャザリングでは「活動の創出」をテーマに今ある社会問題を踏まえ自分たちにできることは何かを、それぞれ考える内容となりました。また、全国ギャザリングでは「知る」をテーマに環境問題について学び活動のきっかけを与えていくことをしました。

2012 年度の様々なテーマにより、青年の環境活動の発展のきっかけとなる場になっていけば嬉しく思います。



## エコ・リーグカフェ



「環境問題」の中で、普段の生活や活動の中では深く考えることのないような分野・テーマにフォーカスを当て、考えることを目的に実施した勉強会です。あまり深く知る機会が無かった分野について知り、議論し、考える事を通して、問題意識や当事者意識を養うことが出来ればと思い、企画しました。2012年度は「里山」「エネルギー政策に関するパブリックコメント」「エコな学園祭」のテーマで3回実施しました。

参加者の方には、新たな知識を身につけていただけたと思いますが、活発な議論とまではいかない部分がありました。議論を促せるような場作りの難しさを感じました。

# 材育成事業



## 環境就職進路相談会

毎年東京と大阪で環境問題に携わる仕事に関心のある学生を対象とした「環境」就職・進路相談会を開催しています。

東京での「環境」就職・進路相談会は毎年12月に日本経済新聞社のご支援のもと、東京ビッグサイトにて行われるエコプロダクツ内の企画として実施しています。今年も全国各地から約250名の参加者を集め、日本最大級の環境関連就職イベントとなっています。当日は午前と午後の2部構成で行われ、午前の部では「日本が誇るエネルギー産業」という題で株式会社ユーグレナ代表取締役社長の出雲充氏、日本総合研究所の赤石和幸氏、日産自動車の島誠二氏にご登壇いただき各々の業界の視点からの環境問題へのアプローチをお話いただきました。午後の部は環境に携わるお仕事をされている様々な業種の企業や公益法人、NPO法人などにお勤めの30名の社会人の方々への集団OB訪問形式での対話会のほか、「環境優良企業の探し方」や「ベンチャーマインドを持った働き方」といったテーマに特化した分科会を実施しました。

様々なフィールドでお仕事をされている社会人の方々から一度にじっくりとお話を聞ける就職イベントというのは環境分野に限らず見渡してみてもそう多くはありません。いずれの企画においても参加者からは「環境の仕事の幅広さを実感すること」はもちろん、仕事に対する価値観をみがく意味でも大変勉強になった」といった声が多数寄せられました。

  


# 社会発信事業

## Resources & 3R Revolution(RRR)

今年度は、2011年にパナソニック株式会社と共同で作成した中学生向け教材を基に、外部イベントでの啓発・情報発信活動を実施しました。年間10以上のイベント等でお話しをする機会を頂けたのは、情報発信事業の一つとして意義深いものであったと感じています。

### ①出前授業の実施

出前授業は中学校・高校・大学・社会人向けの4つの対象に合うように、教材内容を選別したものを行いました。紛争鉱物やe-wasteについての関心を高め、問題意識をもつきっかけを直接提供できるのは出前授業の強みであるため、継続して意識啓発に努めていきます。

### ②家電メーカーへのヒアリング

メンバー自身の知識向上のため、企業にヒアリングを行いました。海外のリサイクル事情や小型家電リサイクル法などの制度面についての知識を深め、メンバーのスキルアップを図りました。今後としても多くの施設を訪問し、幅広く柔軟な知識を深めていくことは必要であると感じました。

### ③ソーシャルメディアによる情報発信活動

2012年度はSNSによる情報発信活動も積極的に行った年でした。出前授業とは異なるアプローチとして、より効果的な啓発活動として位置付けていくことが狙いで、

FacebookやTwitterによる情報発信や、RRR主催のイベント情報等を発信できるツールともなりました。安定した更新・情報発信については未だ課題が残るものの、引き続き発展させていきたい活動の一つです。

## Campus Climate Challenge(CCC)

### ①全国大学環境対策実施状況調査

一般的な民間企業よりも社会的責任や情報公開の意識や制度が遅れている大学においては、当然環境対策実施状況に関してもほとんど把握されていません。そこで、全国の大学を対象に調査を行い、現在取り組まれている状況を把握しています。2012年度は750校を対象に調査を行い、182校から回答を得ることができました。

### ②エコ大学ランキングの策定・発表

大学における課題は様々あり、全ての大学が環境対策に力を入れているわけではありません。逆に熱心に取り組んでいる大学が外部から評価される機会も限られています。そこで前述の調査で得られた情報を基に、エネルギー消費量などの環境負荷の大きさや、対策実施状況を評価して作るエコ大学ランキングを策定し、発表しています。第4回目となる2012年度は日本工業大学が総合第1位となりました。ランキングの結果は大手新聞など約30のマスメディアに取り上げられ、大きな注目を集めました。

### ③全国エコ大学白書の発行

調査結果から得られた統計分析データや、調査およびランキング上位の大学担当者へのヒアリングなどで得られた各大学の特色ある取り組みなどを記載した「全国エコ大学白書」を発行しています。

### ④活動サポート

大学内で環境・省エネ対策に取り組んでいる担当者の方、および学内をフィールドに環境活動に取り組んでいる学生の方々をサポートするために、講師を招いた研修会を開催しています。

### ■成果および今後の展望

エコ大学ランキングは新聞、テレビ、ラジオなど多くのマスメディアに取り上げられ、認知度・回答数ともに徐々に高まってきました。また、電力需要の逼迫およびそれに伴って行政主体で節電要請がされるなど、この課題を巡る状況が急速に変化しており、今まで以上に野心的な目標を立て着実に成果を上げている大学もあります。

## 組織図



## 役員一覧

代表理事	岡田 彩
副代表理事	一宮 祐輔
同	坂本 卓司
理事	裏野 秀和
同	大木 博文
同	種田 真麻里
同	芳賀 知大
同	三澤 あい
同	若田 謙一
同	和田 緑
監事	井上 雅之
同	宇野 剛

2012年度貸借対照表

2013年3月31日現在

特定非営利活動法人 三ツ・ミーゴ  
(単位:円)

科目・摘要	金額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現金	662,090		
預金	10,161,221		
未収金	673,600		
未払金	247,677		
仮払金	240,201		
前払費用	0		
流動資産合計		12,195,890	
<b>2 固定資産</b>			
敷金	262,480		
ソフトウェア	0		
固定資産合計		262,480	
資産合計			12,458,370
<b>II 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
未払金	203,170		
短期借入金			
預り金	410,201		
前受金	0		
未払法人税及び住民税	70,000		
未払消費税	0		
未払事業税	0		
流動負債合計		683,371	
負債合計			683,371
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1 前期繰越正味財産</b>		11,041,026	
<b>2 当期正味財産増加額</b>		420,970	
正味財産合計			11,761,996
負債及び正味財産合計			12,448,366

2012年度収支決算書

2013年4月1日 至 2013年3月31日

特定非営利活動法人 三ツ・ミーゴ  
(単位:円)

科目	金額		
<b>I 収入の部</b>			
<b>1 会費収入</b>			
(1) 普通會員会費収入	211,000		
(2) 賛助會員会費収入	80,000	291,000	
<b>2 事業収入</b>			
(1) ネットワーク事業	2,946,911		
(2) 人材育成事業	1,054,200		
(3) 社会関係事業	2,169,796		
(4) 情報収集・発信事業	133,637		
(5) その他	663,084	6,881,637	
<b>3 寄付金収入</b>			370,007
<b>4 助成金・補助金収入</b>			4,566,304
<b>5 受取利息</b>			2,168
<b>6 雑収入</b>			6,000
<b>7 謝金収入</b>			60,000
当期収入合計			12,171,016
<b>II 支出の部</b>			
<b>1 事業費</b>			
(1) ネットワーク事業	1,860,644		
(2) 人材育成事業	282,331		
(3) 社会関係事業	2,917,784		
(4) 情報収集・発信事業	1,030		
(5) その他	76,681	6,131,270	
<b>2 管理費</b>			
(1) 給与手当	1,021,633		
(2) 法定福利費	19,419		
(3) 福利厚生費	10,290		
(4) 謝礼金	189,000		
(5) 旅費交通費	697,499		
(6) 通信運搬費	251,168		
(7) 消耗品費	86,623		
(8) 備品購入費	0		
(9) 印刷製本費	80,801		
(10) 水道光熱費	123,600		
(11) 賃借料	691,098		
(12) 新聞図書費	0		
(13) 雑費	10,000		
(14) 会費	261,644		
(15) 保険料	19,760		
(16) 修繕費	0		
(17) 雑給分額	74,000		
(18) 未払利息	0		
(19) 雑費	37,667		
(20) 減価償却費	0	3,516,776	
当期支出合計			11,750,046
当期収支差額			420,970
前期繰越収支差額			11,341,026
次期繰越収支差額			11,761,996

# 沿革

西暦	エコ・リーグの沿革	エコ・リーグに関係する 主な青年環境活動
1990		
1991		A SEED JAPANキャンペーン
1992		日本青年環境開発会議 「国際青年環境NGO A SEED JAPAN」発足
1993	Youth Ecology Camp'93 (長野県美麻村) 開催 (エコ・リーグ設立準備委員会発足)	日本青年環境会議 (March Meeting) スピーカーズツアー 広島宣言 (※) 「きゃんぱすえころじー委員会」発足 環境オープンゼミ発足
1994	エコ・リーグ設立	
1995	全国事務所を東京都渋谷区桜ヶ丘町に設置 「きゃんぱすえころじー実行委員会」がELのプロジェクト化「ECO LINK」誕生 「「環境」就職・進路相談会」開始 えこわーくstation	Youth Action for APEC
1996	全国事務所が移転 (東京都新宿区新宿)	「SCOP」発足
1997		Cool Earthキャンペーン 「自転車きゃらばん」発足
1998		「ECO学園祭ネットワーク」発足
1999	日韓環境ギャザリング開始 えこみゅにけーしょん開始	環境政策ネットワーク発足
2000	全国事務所が現在の場所へ移転 (東京都新宿区神楽坂) 理事会制度開始	「コンビニの環境改善を考える学生の会」発足
2001		環境共育NGO「ToBe」発足 「環境ムーブメント」発足
2002	スピーカーズツアー実施 「「環境」就職・進路相談会」エコプロダクツにて開催 (以後、毎年実施)	
2003	世代間環境フォーラム2003開催	
2004		「日米環境学生会議」開始 (Japan for Sustainability主催)
2005	国連環境計画 (UNEP) TUNZA北東アジア青年環境ネットワーク会議開始 エコ・リーグは日本窓口団体となる	「ペーパープラン」発足 「全国大学生環境活動コンテスト」開始
2006	Start UP 3R開催 (全国大学生生活協同組合連合会との共催)	
2007		Japan Youth G8 Project発足
2008	EcoWorkナビ開始 Campus Climate Challenge開始	持続可能な社会のための世界青年サミット
2009	専従有給職員雇用開始	「Climate Youth Japan」発足
2010	がけっぶちの生物多様性キャンペーン (A SEED JAPANとの連携)	
2011	Beyond(環境・経済・社会など様々な観点から持続可能な社会を考える青年のイベント)開催	
2012	NPO法人格取得	

## ご支援・ご協力

### ■寄付・支援金等

2012年度は以下のご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

【エコポイント】家電エコポイント寄付制度の寄付として 156,057円、住宅エコポイント寄付制度の寄付として 18,210円をいただきました。

【その他】個人様などからの寄付として、合計 376,007円をいただきました。

■助成：独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金

■受託：株式会社 NHK プロモーション パナソニック株式会社 J-POWER 電源開発株式会社



特定非営利活動法人 エコ・リーグ

関東事務所

〒162-0825

東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館507

tel: 03-5225-7206

mail: [eleague@mx.mesh.ne.jp](mailto:eleague@mx.mesh.ne.jp)